

米子城に まつわる史跡

「横田騒動」で殺された家老、横田内膳正村詮の墓碑のほか、画像と遺品が所蔵されています。

四重櫓改築の試作品と伝えられる鯨(しゃちほこ)が保存されています。

昔、亀島と呼ばれる小島でしたが、今は埋め立てられ、大きな松と岩が残っています。荒尾家の家臣、村河氏が清洞寺を移して菩提寺としたので、この島が「清洞寺岩」と呼ばれるようになりました。

今から約400年ほど前の江戸時代初め、米子城築城の際に、防潮林として植えられたといわれるクロマツ。湊山公園正面入口の左右に、現在は12本が残っています。

米子市で唯一の武家屋敷の建物。小原家は、荒尾氏の家臣でした。西町にあったその屋敷の長屋門を移築保存したものです。

城主居住の御殿などがあった二の丸の入口にあたり、高石垣と枡形、虎口がよい状態で残っています。御殿跡の一角は、現在、市営湊山庭球場になっています。

米子城主だった中村一忠の墓があり、また、中村一忠主従木像が安置されています。

代々米子城預かりとなった荒尾家の菩提寺です。お寺の裏には、歴代の墓碑10数基の並ぶ墓地があります。

